

平成28年4月1日

風は東から

To be continued...

新年度&関東大会がスタート !!
上級生としての自覚と志を !!

新年度(2016)がスタート !!

いよいよ関東大会都大会 VS 多摩大目黒へ !! 4.3. sun. 15:30ko

4月1日、いよいよ2016年度がスタートしました。

学校の中庭の桜も多摩川沿いの桜も、終了式後には蕾のままでしたが、この数日で一気に花を咲かせ始め、只今満開!!残念ながら、今年は入学式まではもたないかな…?

さて、子どもたちは今日からひとつずつ学年が進級し(自分も今年は二年生に進級します)、二年生は三年生で最上級生となり、学校内では最も注目される存在となります。一年生も遂に上級生となり、一週間後には後輩が入学してきます。いよいよ先輩になるのです。呼ばれ方だけではなく、子どもたちには上級生としての自覚をもって行動で示せるよう、新年度の学校生活に臨んで欲しいと思います。何事も最初が肝心です。

子どもたちには、サッカーはもちろんのこと、学校内でもリーダー的存在となって活躍することをスタッフ一同、期待しています!!



< 校内の桜も満開です !! 花見は今がチャンスかも…? >

さて、新人戦が終了後から三か月間に及ぶ厳しい冬の「鍛錬期」は、先週の「土浦・学園フェスティバル」で無事に終了しました。今年は四月早々に、関東大会都大会という大きな「目標」があるので、子どもたちのモチベーションも極めて高く冬の間維持しながら、質の高いTRをすることができました。また、三か月間で行われたTRMの数は53試合であり、一日二ゲームや遠征、強豪校とのゲームも頻繁にありました。「土浦・学園フェスティバル」でのゲームを見ていても、冬の厳しいTRで揉まれ、心身ともに逞しく成長し強くなった成果が見られました。

いよいよ、**関東大会予選都大会**がスタートします。強豪校相手にここまできたら、東高サッカー部には失うものはありません!!全力で闘うだけです。当日は、応援宜しく願いいたします!!

<天野先生よりラストメッセージ !!>

府中東高校に4年間お世話になりました。

この4年間で私が一番印象に残っている試合の話をしたと思います。

2013年の夏、40期生が3年生の年（平石の代が1年生）に、選手権で都大会に出場しました。都大会2回戦、成立学園 対 都立府中東高校。**成立学園はその年のインターハイ覇者でした。**我々は気合十分、各上相手に噛み付くつもりで挑みました。キックオフ。前半1分にCKから失点。その後も立て続けに失点し、あっという間に0-3となりました。経験したことのない強さの相手に、イレブンはもちろん、ベンチもあっけにとられていました。そのとき。**前半20分、成立学園が選手交代をしたのです。交代されたのはエースのストライカー、つまり「次の試合のために温存」したということです。**このとき私は、「ああ、相手にされていないんだな」と思いました。主力を下げた成立学園に、その後も点を取られ、結果は0-6、まさに惨敗でした。悔しいというよりは虚しいという気持ちでした。当時の府中東サッカー部は、他の地域のチームとの試合といえば、「トップリーグの年間10試合だけ」といっても過言ではありませんでした（同じ地区でも大成とはめったにやってなかったと思う）。そのような、まさに「井の中の蛙」のチームが、**「井の外の世界を知った」**瞬間が、この成立学園との試合でした。

みんなにとっては日常のことだからわからないかもしれないけれど、毎週のように力のあるチームと試合ができることは、とてもありがたいことなのです。

こんな話をしたついでです。自分が生活している**「日常」**がどれだけありがたいものか、考えてみてください。3食きちんと食べられる、ユニフォームやスパイクが手に入る、遠征に行ける……。保護者の方が、**時間と金**を費やしてくれているからこそ成せる日常ですよ。私はまだ親ではないので正直わからないのですが、自分の時間や自分で稼いだお金を、他人のために使うというのは、よっぽど愛情がないとできないことだと思うのです。（少なくとも一人暮らしの天野にはそう思う。こんな単純な理屈じゃないのかな、保護者のみなさん、おかしい表現でしたらすみません。）

試合が終わるとき、毎日の練習の最後、必ず「ありがとうございました」と礼をします。相手に対して、自分のために時間を使ってくれたことへの感謝です。でも、**毎日親に感謝の礼をしている人**はいないですよ（いたらスゴイ！）。

毎日とは言いません。たまには**親に感謝の言葉**を伝えてみませんか？ 恥ずかしい気持ちはとてもよくわかります。天野の場合は親の誕生日と自分の誕生日にありがとうメールを送っています。年に3回、これでも少ないですね。

「一期一会」という言葉があります。友達、先生、コーチ・・・人との「出会い」は本当に素晴らしいものだと思います。でも、数ある「出会い」の中で、**一番最初で一番濃い「出会い」は、他ならぬ親子の「出会い」**じゃありませんか？

天野

2016年3月25日